

発展する東アジアと北陸経済

ーアジアへの表玄関 北陸の展望をひらくー

講 師：北陸経済連合会特別顧問 福井県立大学客員教授 新木 富士雄氏

日 時：平成22年7月16日(金)午後1時30分から

場 所：福井県国際交流会館 2F 第1.2会議室

内 容：■ 所長あいさつ

■ 講演

■ 質疑応答

■ 所長あいさつ

皆さん、こんにちは。ただいまご紹介に預かりました、地域経済研究所の所長の北條でございます。開会にあたりまして、ひとことご挨拶をさせていただきます。

皆さん、本日は大変蒸し暑い梅雨空の下、しかも公私ご多用の中、第6回地域経済研究特別フォーラムに、これだけ多くの皆さんのご参加をいただき、誠にありがとうございます。主催者を代表いたしまして、心よりお礼を申し上げます。

今回のテーマは、『発展する東アジアと北陸経済』、サブタイトルは『アジアへの表玄関 北陸の展望をひらく』でございます。講師の新木富士雄先生には、ご多忙の中、快くお引き受けいただきまして、改めて厚くお礼を申し上げます。

さて、地域経済研究所は、あのイチローが大リーグに渡りました年と同じ年、2001年に開所されまして、2010年から始まる10年を第2ステージとしてとらえて、飛躍と

チャレンジをモットーに新機軸を打ち出そうと考えております。そのひとつは、研究領域のワイド化であります。従来の領域に加えまして、東アジア経済や環境、健康、福祉などのテーマを視野に入れたと考えております。本日のテーマもその流れの一環でございます。本日のタイトルを改めてご覧いただきますと、メッセージ性があり、なかなか魅力的ではないかと、内心想っております。私ども、これまで、70数回にわたりましてこのフォーラムを開催してまいりましたが、これらの中でも大変インパクトのあるテーマのひとつではないかと自讃しております。研究者というのは得てして、このペシミストな見方をしがちでありまして、タイトルでも「課題」とか「問題点」といった、そういうワードを使いたがる特性がございます。しかし、今回のものは前向きで、小気味のよいものになっているのではないのでしょうか。このネタばれをしますと、実は講師の新木先生のお知恵をお借

りしてというか、先生の強い思いというものをうまく表現していただきました。つまり、タイトルの新機軸は、新木先生のおかげであります。ま、この「新機軸」と「新木」をかけているのですけど、ま…（会場から笑い）…、ありがとうございます。

今日のご案内のキャッチコピーに、「北陸に住む我々が北陸のことを知らない」と、こういうことが書かれています。私はこれに大変衝撃を受けました。『北陸3県のGDPがあつたハンガリーやニュージーランドを上回っているということを知っていますか？』と聞かれますと、「はい」と答えられる方は案外少ないんじゃないかと思えます。今日はこのあたりのことを含めて、私もしっかり勉強したいと胸を膨らませているところでございます。

新木先生のプロフィールにつきましては、ご案内のとおりでございますので、詳細は差し控えさせていただきますが、北陸電力株式会社社長、その後、同会長を歴任され、平成17年から5年間に渡りまして北陸経済連合会会長として、また北陸環日本海経済交流促進協議会の会長として、北陸経済の活性化に向けて、大変エネルギッシュな活動をされてこられました。ほんの1,2例を挙げますと、ご案内のとおり、平成17年に国土総合開発法が抜本改正されて、国土形成計画法に移行しました。「北陸圏広域地方計画」の策定にあたり、計画策定主体の協議会会長に新木先生があたられ、2年半の長きに渡り取り組まれ、ご苦労されまして、昨年8月に大臣決定を見ました。また、北陸新幹線の整備促進の要望活動を100回もされるなど、文字通りお百度参りをされたと

伺っております。こうしたいろいろな活動に対して、私は心より敬意を払いたと思います。

さて、この5月に北陸経済連合会会長をご退任されて、現在特別顧問にあられます。ホッとされるまもなく、県立大学は「ぜひお力を貸していただきたい」と、7月1日から本学の客員教授をお願いいたしました。客員教授は、社会の一線で活躍されておられる著名な方をお願いいたしまして、実践社会の知見を講義や講演という形で学生等に教えていただき、学生の人間力形成に結びつけたいと考えてございます。これも、実は法人化による拡充された制度のひとつでございます。

最後に、本日はカレンダー的には7月16日で、語呂的には「なないろ」でございます。京都では、祇園祭の宵山で、コンチキチンの七色の音色で盛り上がっていると申します。本日のご講演をお聴きになった方は、講師の心の遺伝子を伝授し、心は七色、虹の色、という具合で、梅雨空の梅雨前線をさらに押し上げて、蒸し暑い暑さを吹き飛ばしてくれることを期待しております。

本日のフォーラムを契機として、個性と資源がつまっている北陸を再認識し、今後の展望を切りひらく、いわば『新木イズム』というものを広く普及することを念じまして、開会の挨拶とさせていただきます。本日はどうもありがとうございました。

■講演

ただいま、北條地域経済研究所の所長さんから過分なご紹介をいただきまして、ありがとうございます。私は福井市の旭小学校、成和中学、高志高校を出まして、昭和34年に金沢大学を出ました。同時に北陸電力に入社をいたしました。この4月に会長を退任しまして、半世紀にわたって北陸電力で、電気事業一筋にやってきたわけでございます。

先ほどお話がありましたように、北経連の会長を5年間やっておりまして、これはまさに頭を使うというよりも、人と会うことと足を使うことが多かったように思います。北陸の新幹線の着工のために、どのくらい足をつかったか調べましたら、100回以上、陳情のお百度参りをしていました。また、中部縦貫道、あるいは東海北陸自動車道の早期完成、敦賀港の拡充についても陳情を重ねました。

こうした活動の中で、私は北陸というものをどう考えてきたか。決して私は研究者でもございませんし、学者でもございませんが、実際活動する中で、北陸というものを私なりに積み上げてきたものを今日皆さんにご披露して、またご批判も仰ぎたいと思っているわけであります。

今日、何を結論に持ってきたのかということですが、21世紀のこれから、約20年後、アジアのGDPが世界の4割になるという予測があります。今、大体世界の4分の1がアジアのGDPで、日本が11%、その他が14%ですが、将来、アジアが世界の中で最大の市場になるであろうということは、多くの人が言っていますので、間違いないと

思います。今日の新聞に中国の4-6月のGDPが10.3%ということで、やや落ちたということを書いています。しかし、それでも2010年度の上期には、おそらく中国は日本を越すであろうということも言われておりますし、2010年度で見るとこれは必ず越すとされています。

それで私は、今、石炭の状況がどうなっているか、ちょっと気になりました。いろいろな指標がありますが、おそらくオーストラリアの石炭が中国・韓国などの買い付けで積出港も相当混雑して、石炭船は港に入れず、沖待ちが5日ぐらい続いているかもしれないから、秘書に「ちょっと確認してほしい」と言って、車の中から調べてもらいました。実は今日現在で15日間、沖合い待ちです。ほとんど中国から石炭を求めてオーストラリアへ来ているわけです。これはオーストラリアだけでなく南アとかもあります。15日間、夏場でもないのに沖合いで石炭を積むのに待っているわけです。

私の今日の結論は、北陸がなんと言いましても、これからは東アジアの発展の中で重要な役割を占めるということです。そして、北陸は“裏”ではありません。間違っても、よく「“裏”日本は」と言われる人がいますけれども、実は環日本海をリードする地域であるということ、よく理解していただきたいということです。今日、私はいくつかの事実を皆さんにお示ししますので、どうか自分の頭の奥にある、北陸は裏日本だとか遅れているとかいったネガティブな思い込みを捨て去って頂きたいと思っております。

I. 北陸の産業

それではまず、北陸の産業の特徴でござ
います。私は電力会社にいるからではござ
いませんが、北陸は非常に水力が豊富で安
い電力があった、そして良質な労働力も
あったということで、石川・福井では繊維
が発達いたしました。わたくしの家も機屋
でございます。それで、福井は繊維が、石
川では機械工業が発達いたしました。そこ
で、富山県では電解・電炉工業、資料に書
いていますように、電気でもって分解をする
、あるいは電炉を利用した産業、電力多
消費型の産業であります。こういったもの
が発達しまして、現在ではこれが医薬品と
か電気機械、化学、肥料や半導体というふ
うに変化しています。福井の繊維も石川の
繊維も、電気の使用量からみますと、昔は
最も比重が高かったのですが、今は電気機
械や半導体の比重が最も高くなっています。
戦後は石油化学が発達し、プラスチックや
化学繊維などの原料は、石油やナフサから
作られるようになりました。しかし、昔は
石油化学がなかったために、塩を電気分解
してか性ソーダを作ったり、石灰石を電気
炉で焼いてカーバイドを作り、カーバイド
からアセチレンを作っていました。こうし
た電解槽・電気炉により原料を作っていた
のを、電解・電炉工業と言っていました
(資料参照)。現在、半導体とか液晶のディス
プレイとか太陽電池の材料となるシリコ
ン、これも実は電気炉なんですね。電気炉
でこれをつくっていますが、電気炉の中身
が昔と今とでは変わってきたことを理解し
ていただきたいと思います。

○戦前の北陸の産業

①豊富な水力による低廉な電力、②良質な労働力 を利用した産業が発達

<石川・福井>
繊維産業の電化 ⇒ 紡績王国へ(繊維機械など)

<富山>
電解・電炉工業(電力多消費型産業)が立地
⇒ 工業県へ(医薬品、電気化学、紙・パルプ、肥料、レーヨン、半導体 など)

【参考】化学工業の変化
(戦前)アンモニア、苛性ソーダ、カーバイド、化学肥料
↓
(戦後)石油化学(ナフサ、エチレン、プロピレン)

4

○電解・電炉工業

○ 使用電力量が大きく、原価に占める電力量の比率が高い
○ 低廉な余剰電力を使用するため、地域的には北陸・東北に多い

電解法ソーダ: 塩 [NaCl]、水 [H₂O] → 電解槽 → 電気 → 苛性ソーダ [NaOH] (水酸化ナトリウム)、塩素ガス [Cl₂]、水素ガス [H₂]

カーバイド: 石灰石 [CaO]、コークス [C] (石炭を乾留した燃料) → 電気炉 → 電気 → 一酸化炭素 [CO]、カーバイド [CaC₂]

カーバイド + 水 → アセチレン [C₂H₂] + α (α: 炭化水素)
// + 窒素 → 石灰窒素 (肥料・農薬)

電解法硫酸: 水 [H₂O] (昭和40年頃までは水の電気分解で水素を製造) → ナフサ (現在は、ガス法にて水素製造(石炭→原油→ナフサ))
水素 [H₂] + 窒素 [N₂] → アンモニア [NH₃]
アンモニア + 硫酸 [H₂SO₄] → 硫酸 [(NH₄)₂SO₄] 肥料

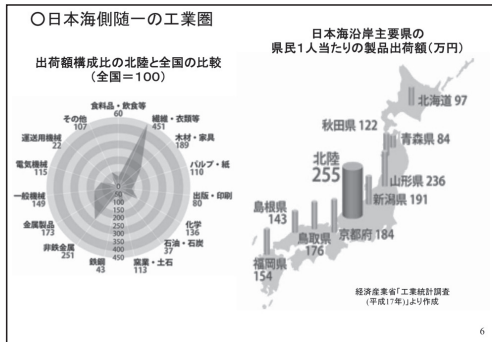
化学繊維、洗剤、パルプの造紙、薬品原料として、殺菌剤、漂白剤、塩化ビニル樹脂等

炭化水素、アセチレンランプ、ベンゼン等の化合物

発電の方ですが、豊富な水力はそのウエ
イトがぐっと下がってきまして、原子力が
それに代わっています。福井県は全国の約
4分の1を占めているという大原子力県で
ありますが、福井県は半導体や電気機械な
ど、日本の最先端産業をエネルギーの面
でも大きく支えているということが言える
と思います。

下の図の「日本海側随一の工業圏」は出
荷額の構成比を表している図です。一番外
側が450、全国平均を100として4.5倍です。
構成比の種類は、石油・石炭、あるいは窯
業・土石、鉄鋼とありますが、北陸は繊維
が全国の4.5倍、非鉄金属が2.5倍、金属が
1.7倍となっています。この図から言えるこ
とは、北陸の産業の裾野というのは非常に
広いということです。

その右の図は日本海側の一人当たりの工業出荷額でありまして、いかに日本海側で北陸が突出しているか、ということがわかります。



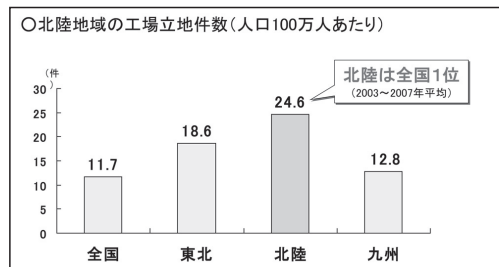
次は北陸の工業団地・研究開発拠点ですが、テクノポートふくいには皆さんご存じですが、若狭湾エネルギー研究センターというところは、いろいろなエネルギー、原子力関係のエネルギー研究をしており、ガンの陽子線の治療の実証研究はここで行なわれました。そして今、福井県立病院にガンの先端治療として、この陽子線の治療施設ができました。私は、こういったものはこれからの東アジア時代に、中国、韓国からガン治療の患者を受け入れ、そして後からお話しますが、温泉治療でそこで癒してもらう、医療と観光が結びつく時代がやってくると思っております。



それから、これは各県の立地の助成制度の中身でありまして、各県ともがんばっておられます。次に「北陸地域の工場立地件数(人口100万人当たり)」、これはデータが2003年から2007年度ということで古いですが、北陸は全国1位であります。

○全国トップクラスの助成制度

富山県	最大56億円の助成金を整備	(1)富山県企業立地助成金 最大50億円 (2)富山県主要工業団地等立地助成金 最大50億円 (3)人材集積助成金 最大1億円 (4)民間研究所立地奨励金 最大5億円 (1)と(3)と(4)、または(2)と(3)と(4)の組み合わせ
石川県	最大35億円の助成金を整備	(1)創造的産業等立地促進補助金 最大15億円 (2)雇用拡大関連企業立地促進補助金 最大20億円 (3)いしかわサイエンスパーク研究所等立地促進補助金 最大5億円 (1)と(2)、または(1)と(3)の組み合わせ
福井県	最大33億円の助成金を整備	(1)企業立地促進補助金 最大33億円



そして次が北陸のシェア世界一、あるいはオンリーワン企業の数です。昨年、北経連で調べたものですが、北陸には、独自の技術で生産シェアを有するオンリーワン企業がたくさんあります。会社数で80、製品数で106ございますが、会社の都合で非公表の分は入っておりませんので、実際はこれよりもっと多いと思います。富山ではYKKさんや三協アルミさん、これもトップシェアです。立山科学さんの360度カメラ、コマツさんの建設機械・プレス機械、東レさん、セーレンさんの化学繊維、清川メッキさんのナノめっき、日華化学さんの界面活性剤、松浦機械さんの五軸の機械など多種多様です。

○北陸のシェア世界一(オンリーワン企業)
 ・富山 : アルミサッシ、工作機械
 ・石川・福井 : 建設機械、プレス機械、化学繊維

【生産シェアが日本一、または世界一を占める企業数、製品数】

	富山		石川		福井		北陸 合計	
	会社数	製品数	会社数	製品数	会社数	製品数	会社数	製品数
機械・金属	14	22	17	22	8	9	39	53
電気・電子	2	2	8	10	2	3	12	15
化学	1	1	0	0	3	5	4	6
繊維	2	2	0	0	3	6	5	8
プラスチック	0	0	0	0	2	5	2	5
産業	1	2	1	1	2	2	4	5
その他	3	3	7	7	4	4	14	14
合計	23	32	33	40	24	34	80	106

(資料) 北陸経済連合会調べ(H21/6月)

典型的なものをちょっと選んでみただけですが、立山科学さんは360度の全方位のレンズを開発しておられますし、石川の能任七さんは『きく8号』の、通信衛星のアンテナです。モリブデンという髪の毛より細い金属に金メッキをしましたものをトリコット編みで編んだものですが、それが宇宙でテニスコート2面分に開くわけです。宇宙とのデジタル通信になぜトリコット編みの技術が必要なのでしょう。実は、宇宙では小さな隕石が飛んできますから、網状のアンテナに当たりますと穴が開いてしまいます。トリコット編みの良い点は、隕石が通ったところだけプツと穴が開きますが、そこから伝染して破れていかない利点があります。これは「あんまり宣伝してくれるな」と言われているんですが、私はなかなか面白いなと思っています。いわゆる「繊維がダメ

だとかそういうことではないですよ。宇宙衛星はロケットの技術も大事ですが、こうした繊維の技術がなかったら「きく8号」はできなかったんですよ」ということを言いたいのであります。

それからセーレンさんの「ビスコテックス」。デジタル染色が1677万色の組合わせで出来る。そして「セリシン」の化粧品。絹の繭を扱う女性の手がいつもツルツルしているということは昔からわかっていましたが、絹の表面のたんぱく質の「セリシン」がツルツルにいいということが判り、これが今、化粧品として利用されています。

あるいは富山のクロタニコーポレーションさんは、これは非鉄金属のリサイクルでは世界のトップクラスでありますし、大型船舶用のスクリー用原料であるアルミ青銅の世界シェアも70%ということでもあります。

③ セーレン殿(福井)

- ・染色技術「ビスコテックス」により製品の早期出荷が可能(1677万色)
- ・セリシン入り化粧品

④ クロタニコーポレーション殿(富山)

- ・非鉄金属のリサイクルで世界トップクラスの取扱量
- ・特殊合金精錬技術
大型船舶用スクリー用原料
アルミ青銅の世界シェア70%

スクリー(左)、再生合金(下) 12

次は、福光屋さんのコメの発酵技術を利用したコメ発酵液、それから福井洋傘さんの「ヌレンザ」です。これはトヨタ高級車のレクサスのグッズになりました。「ヌレンザ」にはエピソードがあります。今日は日華化学の江守会長もお見えですが、江守会長さんと一緒に、トヨタの、当時の張副会長(現在会長)のところへ行ってお願いしたの

○キラリと光る企業のご紹介

① 立山科学工業殿(富山)

- ・360度全方位レンズ
- ・金属ナノ粒子

② 能任七殿(石川)

- ・ニット: 通信衛星「きく8号」アンテナ

がきっかけです。願いの趣旨は、レクサスの新車発売をきっかけに「ヌレンザ」をレクサスグッズにして頂けませんかということでした。張副会長の対応は大変誠実で、しかもとてもスピードがあるのに驚きました。次は、富山化学さんのインフルエンザの特効薬です。これは今、実験が行なわれていまして、現在、最終段階の臨床試験ということで、タミフルよりも高い治癒力があるということができております。あと、北陸電力、ちょっと宣伝になりますが、リチウムイオンを使ったバスを開発いたしました。これが北海道の洞爺湖サミットで提供されましたし、この間、APECの福井の会議でも、4日間動いております。これから富山市で8月から、これは無料バスとしてテストの運転を開始する予定であります。

⑤ 福光屋殿(石川)

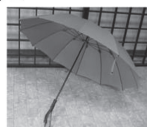
- ・清酒の発酵技術に応用した
コメ発酵液を開発
- ・大学、メーカーと共同で
自然派化粧品を開発



コメ発酵液を使った化粧品

⑥ 福井洋傘殿(福井)

- ・顧客の要望に応じたフルオーダーシステム
- ・ぬれない傘「ヌレンザ」
→トヨタ高級車「レクサス」でも販売



ヌレンザ

13

⑦ 富山化学殿(富山)

新型インフルエンザ特効薬として期待される治療薬「T-705」を開発中、2008年1月より臨床試験を実施

⑧ 北陸電力の技術開発

(a) 小型電気バス・急速充電装置の開発

国内初の高性能リチウムイオン電池を動力源とする「純電気バス」

<小型電気バスの概要>

- ・定員28名 ・最高速度 90km/h ・航続距離 100km/回
- ・CO2排出量は約▲60%に抑制(同クラスディーゼル車比)

→北海道洞爺湖サミット(H20/7)に提供

→APECエネルギー大臣会合(H22/6)に提供

→H22年度は、富山市等と連携し、「低床型コミュニティ電気バス」として実証中。



開発のベースとなる低床型バス

14

それから、これはアスベスト、石綿が非常に社会問題になっているわけですが、これを車に積んでそのまま建設現場でアスベストを溶かしてガラス化してしまう技術を開発しまして、1年後に商業化をする予定になっております。

(b) 移動式アスベスト処理車

健康被害が問題となっているアスベストを無害化する、国内初の移動式処理車を開発

<技術の特徴>

- ・低温化
アルカリ溶剤を混ぜることで、従来より低温(1500℃→1100℃以下)で溶融・無害化が可能
- ・現場で処理(1日5トン以上)
解体現場で溶融・無害化処理
- ・再資源化
無害化されガラス状になった物質は、道路の路盤材として再利用可能



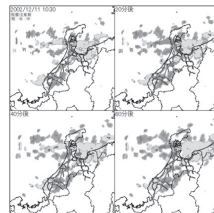
搭載されている150kW誘導加熱炉

15

次がドップラーデータによる雷予測システムです。北陸は雷のエネルギーが冬場は特に大きいんです。雷の被害が問題になってきているわけですが、これは雷雲の位置だけでなく移動速度も観測しますので、どこにどの程度の雷が落ちるかということ予測しまして、その予測したものをインターネットで公開しております。いろいろところで使われております。

(c) ドップラーレーダによる雷予測システム

落雷位置標定システムによる落雷発生件数、気象レーダーによる雲の位置や反射の強さなどのデータから、雷雲から落雷する危険度を10分間隔で1時間後まで予測するシステムを開発。



気象レーダ

落雷予想域の画像を社内イントラネット上で公開し、設備運用などに活用している。

落雷予測画像例

16

全てをご紹介するわけにはいきませんが、この位にしておきますが、北陸には素

晴らしい技術が山ほどあるということを理解していただければと思います。

<その他商品のご紹介>

- ・スギノマシン
新世代ウォータービームマシン
- ・ニッコー 小型風力発電機
- ・清川メッキ ナノめっき技術
- ・ROOTS(ルーツ) 竹メガネ

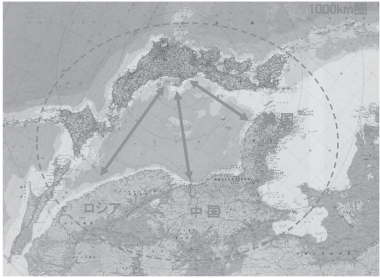




II. 北陸の歴史と風土

非常に裾野が広い北陸の産業・技術が突如として生まれたのではなく、やはりそこに、なにか歴史・風土の蓄積があったのではないかと思います。これは富山県が作成した通称「逆さ日本地図」と言われるものがあります。

○環日本海交流の拠点



環日本海諸国図(逆さ日本地図)

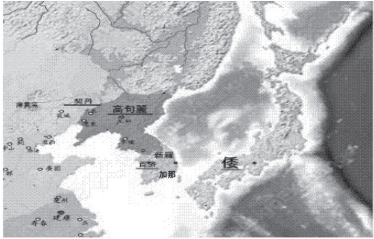
こうしてみると、北陸が日本海を挟んでロシア・中国と東アジア諸国と向き合っていることがよくわかります。日本海はまるでヨーロッパの地中海のようです。実際、日本海は地中海の大体2分の1です。日本と東アジア諸国を結ぶこの日本海は、大きな運河だと私は思っております。先ほどご紹介がありましたように、今後10年間の国土開発の基本計画を定めたものとして「北

陸圏広域地方計画」というものがあります。後ほど説明いたしますが、これを一言で言いますと「北陸圏は環日本海交流の拠点をめざす」ことが国の方針として定められた、ということでもあります。

そこで環日本海交流の歴史であります。私はこの北陸の歴史を考える時に、ひとつは福井の継体天皇、もうひとつは渤海との交流、この2つがあると思うんです。北陸は歴史上、朝鮮、渤海国との交流の拠点でありました。日本海側が実は「表」であったわけです。太平洋側の時代というのは、100年位でしょうか。しかし、いつのまにか、「メリケン波止場」という言葉もありますが、太平洋側が「表」、日本海側は「裏」だと、あそこは雪が降る暗いところだというふうに植えつけられてしまったということがあります。しかも、我々もそれを認め、思い込んでしまっているということが大変問題ではないかと思います。

○環日本海交流の歴史
北陸は歴史上、朝鮮、渤海国との交流の拠点であり日本海側が「表」であった

>ヤマト政権の継体天皇(6世紀)



継体天皇は福井の出身だから言うわけではありませんが、この間、寺島英郎先生と面談をした時ですが、「新木さん、継体天皇の話ね、あれはずいぶん研究が進んでいるから、もう大変なことになるよ」というふうな話をされました。「どういうことです

か？」と言いましたら、「奈良の飛鳥寺は、日本最古の本格的な伽藍があるところですが、百済から仏舎利が献上されたこと。飛鳥文化はどうも百済人がつくったものではないか、仏像も含めてね。そうすると、継体天皇と百済との関係は、今よりも、もっとつながりが大きかったのではないか。かなり文献も集まってきている。」と言っておられました。

継体天皇は皆さんご存じのとおり、大変苦勞されて、507年に大和政権を統一国家に仕上げた天皇であります。その時代の技術ですが、先ほどの清川メッキさんの話ではないですけども、金メッキの王冠も福井で発掘されておりますし、和紙の技術、うるしの技術もあります。北陸と近江を支配していた地方の豪族の長が継体天皇でありました。継体天皇と技術との関係ですが、大和政権統一の力になったのは、製鉄の技術ではなかったかといわれています。鉄を作ることで、戦いの武器や農耕の用具を持つことができたからです。近江には大きな製鉄所があったようです。磐井の乱について触れさせていただきます。この地図ではちょっと小さいですが、新羅が百済の支配する加那という国へ攻め入るのですが、それを阻止しようとして継体天皇は6万人の軍勢を、実は百済救援軍として出すわけです。百済と継体天皇は緊密につながっており、同盟関係にあったのではないのでしょうか。九州の福岡から30分ほどの八女市にこの磐井の豪族の跡があります。そこには継体天皇のことが書いてありました。磐井族は継体天皇の敵になるわけですが、磐井族は新羅と結んで新しい国をつくろうとした

ようです。磐井の乱を平定した継体天皇は、その他多くの豪族も治めて、大和政権がそこで成立したわけです。九州の筑紫の国の「磐井の乱」は、大和の国の成立において大きいエポックメイキングであった、ということでございます。もし福岡へ行かれたら、福岡からちょっと八女市のほうへ足をのばしていただくと、磐井族の大きな古墳と記念館を見ることができます。

それから渤海国との交流であります。これは8～10世紀、意外と知られていない。これは歴史上マイナーな出来事でありまして、どうしてマイナーかといいますと、遣唐使の方が非常に宣伝されておりまして、でもこれを見ていただくと、遣唐使は12回、渤海使は49回来ているんです。たとえば、九州の民族博物館へ行っても、遣唐使のことは書いてあるけれど、渤海についてはあまり書いてありません。その理由について専門家の人にぜひお聞きしたいと思っています。渤海使の交通手段ですが、当時は帆船ですから、帆船は季節風と潮流に乗って、敦賀あるいは能登の福浦に上陸します。そして、敦賀から琵琶湖を通過して平城京へ行ったわけです。平城京からは、お客としてちゃんと対応するようにということで、敦賀にゲストハウスである客館が設けられておりました。行かれた方もおありだと思えます。それから、能登の福浦には客館と同時に造船所の跡があります。これは、木造の船は航海で傷みますから、船の修理をそこでして、また帰っていったということでもあります。これが渤海との交流でありました。



＞ 渤海国との交流(8～10世紀)

・ 遣唐使以上の交流実績
727～926年: 日本へ35回、渤海へ14回

年代	回数
渤海使 727～926	49回
遣唐使 630～894	12回

【渤海⇒日本】: 高級毛皮、人参、蜂蜜
【日本⇒渤海】: 絹、麻、漆、金、水銀

・ 客院(道賢館)設置
熊登客院(福浦)、松原客院(敦賀)

北陸は歴史上、朝鮮、渤海国との交流の拠点であり「日本海側が「表」」


21

継体天皇と渤海との交流、これ2つが特に福井の歴史の中でも大きい話です。しかし残念ながら全国的にはよく知られておりません。しかし、先程申しました通り、継体天皇の研究は進んでいるようですから、これからどんなことが判ってくるか大変楽しみです。

次は北前船です。これはもう皆様、ご存じのとおり、千石船といわれました。米千石を積める船によって、北海道から昆布が、こちらからは米が動いていったということで、日本海側の西回りの寄港地として、富山の岩瀬、石川の福浦、それから大聖寺の橋立、そして福井の三国、ということで、三国がこの当時大変発達しました。今もその風情を残しています。

○ 北前船(西まわり航路)

・ 江戸時代、北陸・東北の米や、北海道の昆布などを大坂へ輸送
・ 主な寄港地: 岩瀬(富山)、福浦、橋立(石川)、三国(福井)など





北前船船路

岩瀬の街並み

22

次は明治時代、北陸3県が誕生するわけですが、石川県から嶺北が独立し、滋賀県

から嶺南が分離したり、富山県では旧新川県が石川県から分離したり、ということまでございます。明治11年の時の人口と都市の人口を見ますと、金沢が5位、富山が9位、福井が15位ということで、当時は日本の主要な都市であったということまでございます。北陸の都市が東京、大阪、京都、名古屋に次ぐ大都市であった理由は、北陸が米どころで豊かなところであったということと、早くから家内工業が発達していたということが原因かもしれません。

○ 明治時代

・ 北陸三県の誕生

福井県 : 石川県から嶺北が、滋賀県から嶺南が分離(1881)
富山県 : 旧新川県が石川県から分離(1883)

・ 当時の北陸都市人口は全国でも上位 (都市別人口ランキング)

1878年(明治11年)		2008年(平成20年)		
順位	都市名	人口(千人)	人口(千人)	順位
1	東京	685	8,414	1
2	大阪	316	2,517	3
3	京都	255	1,388	7
4	名古屋	129	2,165	4
5	金沢	108	442	38
9	富山	58	417	41
15	福井	42	266	84

1878年は「日本人口史」(關山直太郎)、2008年は「住民基本台帳人口要覧」による
東京は23区を合算したもので

23


それから、もうひとつ「表」であったという証拠が、「欧亜国際連絡列車」です。明治末から戦前までの30年間、東京とヨーロッパを欧亜国際連絡列車が結んでいました。これは最近よく新聞にも出ておりますのでご存じかも知れません。当時、新橋から蒸気機関車の切符を買って敦賀まで行って、敦賀からウラジオストックまで船で、ウラジオストックからシベリア鉄道でヨーロッパへ行ったのです。与謝野晶子が与謝野鉄幹を追って新橋で500人の大歓声で見送られ、そして敦賀へ行って、シベリア鉄道を継いでパリへ行くのに、16日間で行ったということです。これは寺島先生が書かれた本に載っております、帰りはマルセイ

ユから横浜まで帰ると35日、倍かかっているわけです。この、新橋⇒敦賀、敦賀⇒ウラジオストック、ウラジオストック⇒パリ、ロンドンのルートがいかに早かったかということです。これが30年も続いた。その後は飛行機が出てきたり、時代が変わりましたが、私はこの日本海ルートが、またこれからの大きな可能性を秘めていると思っています。

> 欧亜国際連絡列車 (1912~1942年)

- ・ 1912年(明治45年)、新橋から金ヶ崎港(敦賀港駅)直通の「欧亜国際連絡列車」が運転を開始
- ・ 1916年(大正5年)、全通したシベリア鉄道を経由し、日本と欧州を16日で結ぶ当時の最速ルートとして脚光を浴びる

※ 横浜～パリ・ロンドンに比べ半分の日数



24

それから人物でございますが、幕末の偉人が、たくさんでおります。松平春嶽も大変偉い人でしたし、由利公正も皆さんご存じのとおりですが、世界に目を開いていた人物だだと思います。松平春嶽にしても由利公正にしても橋本左内にしても、開国論者であります。西川知事がおっしゃっていますが、司馬遼太郎の「龍馬が行く」の龍馬はどこへ行くのか、それは、越前に行ったんですよ。確かに最後に書かれているのは「越前に行く」と、いうことであります。越前の由利公正に会いに行ったんです。これは「丹巖洞」です。ここで龍馬は由利公正に、勝海舟をひとつよろしくということと、神戸海軍塾、即ち海軍をつくるための資金を5千両用立ててほしいというお願いします。越前藩は龍馬の要望を受け入れま

す。その後、京都で龍馬は殺されるわけがあります。

○幕末の偉人

越前福井藩

- ・ 松平春嶽(慶永)(1828~90)
安政の大獄で蟄居
桜田門外の変以降、政事総裁職就任
坂本龍馬とも交流
- ・ 由利公正(1829~1909)
藩・新政府の金融財政改革
「五箇条の御誓文」起草
- ・ 橋本左内(1834~59)
開国派として幕政改革
安政の大獄で処刑



松平春嶽



由利公正



橋本左内

日本では、幕末に多くの偉人が出ましたが、越前藩は大きな時代の変化の中で、世界に目を開いていたわけです。しかし、ちょっと早かったために、時代に乗れなかったのは残念です。

それからもうひとつ書いてありますが、ここで、日本で一番有名でない人物で、福井の人もあまり知らないけれども、中国で最大の評価を得ている人、それが藤野厳九郎です。ご存じかもしれませんが、解剖学者 藤野厳九郎は、中国の、後に思想家、文学者、今や中国の偉大な思想の哲学者といわれる魯迅の日本留学時代の解剖学の先生です。たった2年間でしたけれども、仙台の医専に藤野先生が教授として行かれたときに、中国から魯迅が医学部を希望して、留学をしておりました。当時、日清戦争に勝ち、日露戦争に勝ち、日本はもう浮き上がっていました。そのときに、ソ連人が殺される場面だったというのですが、それを幻燈で見ている、みんなが手をたたくんですね。その時に魯迅が非常に悲しい思いをするんですが、民族の独立を心に決めるわけです。そういった時代に、藤野先生は魯迅に対して毎日、ノートの添削をして

あげるんですね。三国に記念館がござい
ますが、私はこの話をしまして、寺島実郎先
生がこの本に魯迅のことを書いていただい
ています。今でも魯迅についてものすごく
感動されていてまして、なぜ、一市井人の藤
野先生があ時代に、魯迅に対してあれだ
けの温かい気持ちで接することができたの
だろうか、という疑問でずっと追っておら
れる。調べていくと、藤野先生は小さい時
から漢学に親しんでいたことも書かれてい
ますが、私は北陸特有の仏教への深い信心
が影響していると考えています。ここで北
陸の風土というものをもう少し見てみたい
と思います。北陸は日本のほぼ中央である。
半径300キロメートル以内に東京・大阪・名古
屋の3大都市圏がある。ちょうど「扇の要」
になっておるわけです。それで、日本海の
海岸線の長さが3万5千キロメートルで、
世界第6位です。アメリカの1.5倍、中国の
2倍あります。それで、国土面積あたりの
海岸線は世界1位です。島国ですから当然
そうなるのですが、従って、領海は12海里あ
ります。12海里というと約2倍すれば24キ
ロメートルです。日本が陸としては狭いで
すけども、結構広い面積を持っているんだ、
ということを言いたいのです。

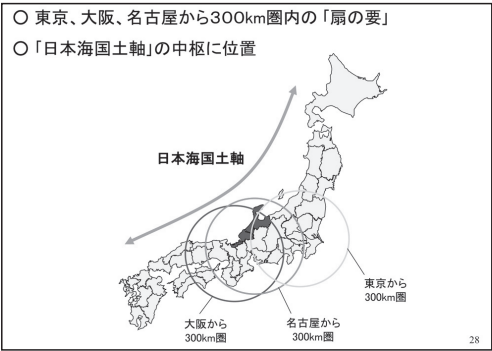
【北陸出身の主な立志伝人物】・・・学者、小説家など

- ・藤野厳九郎・・・医師・教育者、日本留学時代の魯迅の恩師
- ・西田幾多郎・・・哲学者、著書「善の研究」
- ・鈴木大拙・・・哲学者、著書「禅と日本文化」
- ・泉鏡花・・・小説家、明治後期から昭和にかけて活躍
- ・徳田秋声・・・小説家、明治後期から昭和にかけて活躍
- ・橘昭覧・・・江戸末期に活躍した歌人
- ・津村節子・・・作家、第53回(1965年)芥川賞受賞
- ・俵万智・・・歌人、著書「サラダ記念日」
- ・田中耕一・・・ノーベル科学賞受賞
- ・南部洋一郎・・・ノーベル物理学賞受賞、2歳より福井
- ・中谷宇吉郎・・・雪の結晶の研究
- ・高峰譲吉・・・科学者、タカジスターゼ

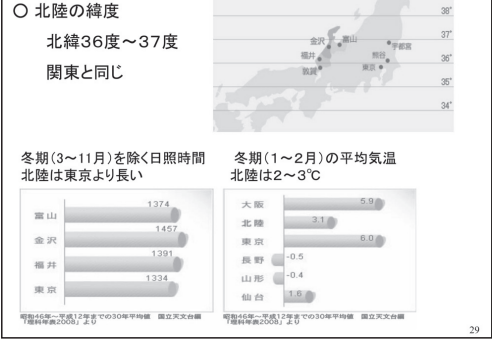
26

【北陸出身の主な立志伝人物】・・・経済界

- ・安田善次郎・・・金融中心に安田財閥創設
- ・浅野総一郎・・・セメント王、現JFEなど京浜工業地帯形成
- ・大谷米次郎・・・ホテル王(ニューオータニ創設)
- ・吉田忠雄・・・ファスナー王(YKK創設)
- ・熊谷太三郎・・・熊谷組創設、原子力開発
- ・正力松太郎・・・元読売新聞社長、初代原子力委員会委員長
- ・山本条太郎・・・三井物産常務、南満洲鉄道総裁



それから次は、北陸の緯度がだいたい熊
谷市と一緒にらいたいということで、冬は確
かにどんよりして雪も降ります。気候も厳
しいという感じがいたしますが、本当に厳
しいかというと、真冬でも平均気温は2～
3℃ということで、山形とか長野に比べま
すと気温はマイナスにはほとんどならない。
春から秋にかけての日照時間は東京よりも
北陸の方が多い。これは東京に行きますと
よく感じます。冬だけがちょっとどんより
している。こういう気候であるということ
で、一見、我々ものすごく厳しいように思
うのですが、そうではない。

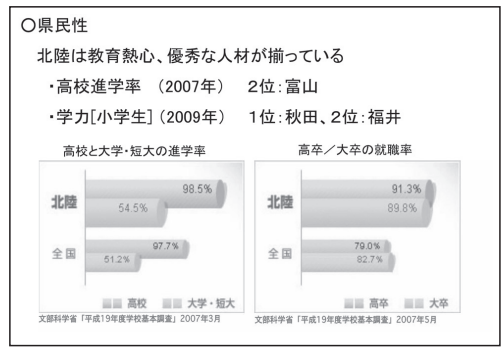


それから我々は、むしろ非常に四季の変化を喜ぶことができる地域に住んでおります。夏は海水浴に行けるし山にも登れる、海釣りもできるし、冬はスキーもできるし、おいしいカニも食べられるということがあります。モノづくりという狭い意味になってしまいますが、クリエイティブ、創造的に生きるとか、モノを考えると、新しいモノを生み出すとかそういう脳の働きはですね、やはり四季の変化が私は必要だと思っております。冬季オリンピックができないところに文明が発達しないということと叱られるかも知れませんが、実際そうではないかと思っております。東京のようなところずっと赤ん坊の時から一生育って、クリエイティブな人間が育つと思われなのです。だから、その環境は変えられないとすれば、小学校時代に夏休みは田舎へ放り出す、あるいは実習として絶対地方へ全部出すというぐらいの教育を考える必要があるのではないかと思っております。この話をしまして、浜松について「浜松はどうか、浜松は温暖ですか？」って聞いたら「いや案外厳しい」って言われました。だから、冬季オリンピックができないところは文明が発達しないというのは極論ですが、やはり四季の変化が厳しいところはやっぱり文明が発達する、という話は正しいと考えています。浜松も、私は住んだことがありませんが、冬は結構厳しいらしいですね。ということで、「あなたの言っていることは間違いではない」ということを、富山の石井知事が評価してくれましたので、間違いはないと思います。



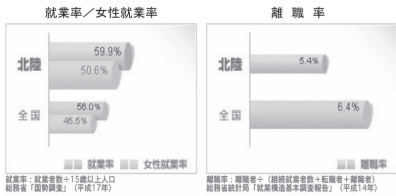
それから県民性ですが、歴史・風土のもとで非常に粘り強い、勤勉である、堅実でかつ新しいものにチャレンジするという性格を持っております。

これはいろいろなところで聞くのですが、北陸の人は是非使いたいという人が多いです。「なぜですか？」という、まじめで勤勉、それから非常にクリエイティブだということで、富山は全国2位の進学率、福井は小学校の学力テストで2位と出ております。非常に教育熱心でもあるということです。そういった、勤勉で粘り強い県民性が安定した雇用関係を生み出しているということがこれでよくわかると思います。



○県民性

勤勉でねばり強い県民性が、安定した雇用環境を生み出す
 ・夫婦共働き率(2005年) 1位:福井、3位:富山、4位:石川
 ・平均貯蓄率 (2007年) 1位:福井



歴史的に、この北陸は京都と関係が非常に強いということで、蓮如も京都から来たわけですが、浄土真宗王国として非常に信仰心が厚い。福井には曹洞宗の本山がございしますが、やはり私は、宗教心というものが北陸の底流にあるのではないかと考えております。「おくりびと」、アカデミー賞の、滝田洋二郎監督も高岡の人ですが、原作は富山の青木新門の「納棺夫日記」、これは文庫本で出ています。青木新門さんはその関わりを嫌がられるんですが、しかし中身は明らかに「おくりびと」は「納棺夫日記」をもとに、描かれたものだと私は思っております。

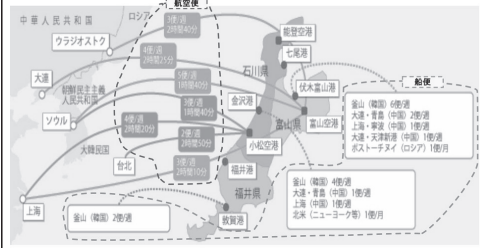
III. 北陸の貿易・通商と交通

さて、以上、風土などは終えまして、次に北陸の貿易と通商と交通について触れさせていただきます。環日本海交流のゲートウェイだと言いましたが、空路では富山、小松、海路は伏木、金沢、敦賀の3つの港がアジアの諸都市へ定期便を運行しています。敦賀から釜山までは19時間ほどで行ってしまうわけです。欧州へは、小松＝ルクセンブルク間でカーゴックス（航空）の貨物が週3回ありますが、これも寺島先生と話をしておりましたら、日本のワインの、

ヨーロッパのワインは全部これで積んで来る、ということをおっしゃっていました。

○環日本海交流のゲートウェイ

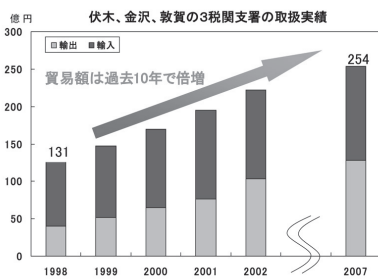
2つの空港、3つの主要港から、アジア諸都市への定期便を運行



それから次に北陸3県と対岸諸国との貿易額が非常に増えている、ということです。これは当然であります、10年間で2倍になっている。それから貨物の量がだいたいオールジャパンの倍の伸びで伸びているということで、これはアジアを中心に、先ほどの経済の伸びが非常に強いということでございます。

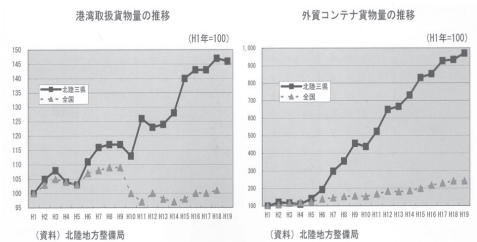
○北陸3県と対岸諸国との貿易額

・約250億円(2007年実績)、過去10年で倍増



○貨物量増加率の推移

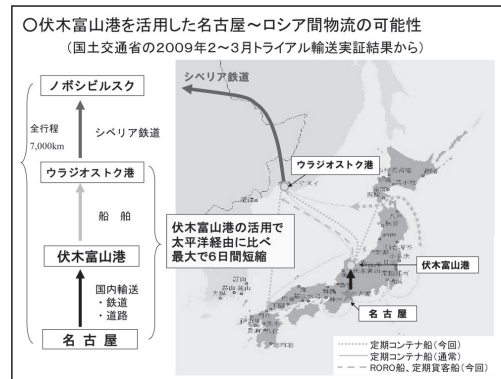
・北陸の港湾における取扱貨物量の増加率は、全国平均を上回る伸びで推移



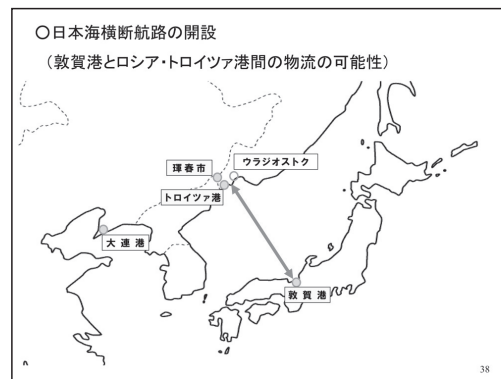
それから先ほど言いましたウラジオストックの話ですが、伏木富山港を活用しまして、名古屋から東海北陸自動車道を使って、そして伏木へ持ってきて、陸送して、そこから海でウラジオストックへ運んで、ウラジオストックからシベリア鉄道へ。さきほどの、欧亜国際列車の再来を実験しようということで、これは実験したものを書いてあるわけです。

ロシアの中南部のノボシビルスクまで7千キロの物流の可能性について実験しております。この結果、陸と海は、うまくやればこれから非常に効率的な物流ができるということが出ておりました、これによって物流の日数の短縮効果が図られるわけがあります。この図でちょっと注目していただきたいのは、名古屋から太平洋側を通っていきますと、津軽海峡を渡るんです、全部、釜山へ行く時もこういう風にして廻るわけです。津軽海峡というのは幅が20キロないので、普通は陸から12海里、領海は12海里ですが、もう全部はみ出てしまうものですから、ここは3海里をとっている。両方3海里とって、その真ん中は公海になっているんです。ここにいろいろな他国の船がうようよ動いているということでもあります。私はここに非常に興味を持っておりまして、津軽海峡に、もし、何かあった場合に名古屋とか東京からどんどんモノを運んでいったら、津軽海峡はいったいどうなるんだと。今、一日40隻ですが、これが80隻になり100隻になったらどうなるんだ、ということです。今、重要港湾、スーパー港湾で、太平洋側の港を強化しようとしているけれども、私はそれに対して「それは問題だ」と

いうことを国土交通省に言っています。「それもやればいいけれども、日本海側を強化しないと、この津軽海峡はいったいどうなるんですか」ということを、戦略的に申し上げているところでございます。



そして日本海横断航路の開設ということで、中国吉林省の琿春市が今、工業団地を進めております。そうしますとここで作ったものを大連港まで運ぼうとすると、陸路で1300キロです。これは大変なので、むしろ琿春市からトロイツァ港というロシアの港を使って敦賀港へ運んだ方がいいのではないかということで、そういうルートを視野に入れて、可能性を考えているところでございます。



また東海北陸自動車道ですが、これは一昨年、実は40年かかって、名古屋と富山が

車で3時間で結ばれました。初めて日本海側と太平洋側に穴が開いて、トンネルだけですが、初めてこれが完成したということで、大きな経済効果を発揮しつつあります。まだ4車線に全部なっておりませんので、先ほど言いましたが、たとえば名古屋の貨物を伏木に持っていかこうとすると、やはり4車線にしないとダメです。ということで、今4車線化を要求しております。福井のほうは舞鶴若狭、中部縦貫道、これをやはり繋げなくちゃいけないと思っております。

・東海北陸自動車道(平成20年7月全線開通)
富山～名古屋:3時間、日本海～太平洋縦断

<北陸の交通体系>

39

IV. 北陸経済連合会の取組み

ここで少し北経連の活動についてちょっと触れさせていただきます。北経連は昭和42年に出来ました。なぜ出来たかといえますと、昭和39年に東京オリンピックがありまして、新幹線もこのときに出来ました。これでは太平洋側との格差が拡大するという危機感で、立ち上がりました。今日は会員の皆様も多くいらっしゃいますが、会員数が430社、専務以下19名で、これは北陸電力他、地元企業で、手弁当で来ていただいて北陸のために働いているということでございます。

それから先ほどの「北陸圏広域地方計画」ということで、私も2年半この会長をいた

しましたが、先ほど言いましたように、この骨子は東アジアと我が国を結ぶ「扇の要」が北陸だということのを徹底的に突き詰めて、今後10年間どうあるべきかを書いたものであります。

(1) 北陸圏広域地方計画の推進

○北陸圏広域地方計画: H21/8大臣決定

- ・今後10年間の北陸地方の国土形成の指針
- ・国(地方支分部局)、北陸3県、北陸経済連合会その他地方経済団体等が2年半にわたり検討・協議

・日本海国土軸の中枢に位置する北陸3県が一つの圏域としてまとまり、北陸地域の将来像・戦略目標をとりまとめたことに大きな意義

北陸圏の将来像

- ・環日本海諸国など世界に開かれた日本海側における交流の中枢拠点

戦略目標

- ・国際競争力のある産業の育成
- ・日本海側の中枢拠点の形成に向けた交流機能の強化等

・東京、名古屋、大阪の三大都市圏から300km圏内に位置する北陸は、東アジアとわが国を結ぶ「扇の要」

・北陸3県とのさらなる連携により、日本海のゲートウェイとしての役割を果たしていく

41

次はその中の具体的なものを書いたもので、ひとつは国際物流、それから企業誘致、観光交流を挙げております。

(プロジェクト例1) 東アジアに展開する日本海中枢拠点形成プロジェクト

■三大都市圏との近接性を活かし、環日本海諸国に展開する国際物流機能の強化と企業誘致の一体的な推進

- ・広域的な産業連携を通じた国際物流機能の強化
- ・国際物流機能を活かした環日本海交流の中枢となる企業誘致策主に信頼される物流ネットワークの構築

【全国の伸びを上回る北陸のコンテナ貨物量】(北本県山福、各不換、貨物量)

(プロジェクト例2) 高速交通基盤を活かした北陸観光交流圏形成プロジェクト

■地域の連携強化による満足度の高い魅力ある観光地域づくり

- ・旅行者が何處も訪れたくなる体験型交流等、新たな観光スタイルの創出
- ・観光案内の多言語化や公共交通の充実等、国内外観光客の利便性向上に向けた環境づくり

■国内外観光客の戦略的な誘客拡大

- ・多様な広域観光ルートの充実、広域交通基盤の強化
- ・北陸の民間・行政等の連携推進体制の強化

北陸圏の多様な主体が連携し、重点的に取り組む

42

北陸新幹線は平成26年度末に金沢まで開通いたします。私は何としても、江守さんと一緒に時代に、福井まで、あるいは敦賀までの完成の確約を見て、退きたかったのですが、なかなかできなくて、本当に残念です。しかし敦賀までの延伸を、必ずやり遂げなければならぬと思っております。そうしますと、東京から富山が2時間7分、金沢までが2時間22分、福井が2時間42分ということで、東京と北陸が2時間台で結ばれます。

(2)北陸新幹線の整備促進

- 北陸新幹線(平成26年度末に金沢まで開通予定)
- 北陸～東京:2時間台、
- 東海道新幹線のバイパス機能



北陸新幹線 (イメージ)

区間	北陸新幹線	東海道新幹線
東京⇄福山	3時間7分	2時間7分 (60分)
東京⇄金沢	3時間43分	2時間22分 (81分)
東京⇄沼津	3時間32分	2時間12分 (50分)
東京⇄福山	3時間1分	1時間29分 (101分)
大阪⇄金沢	2時間25分	1時間54分 (80分)
大阪⇄沼津	1時間42分	45分 (27分)

■北陸新幹線沿線地域の人口(単位:万人)

- 沿線地域の人口(2015年) 4,084
- 東海道新幹線沿線地域の人口 4,786



それから経済効果も問題なく十分あります。これはやらないことの方がロスが多い、中途半端にやめておくことのロスが非常に大きいのです。

それからもうひとつは、東海道新幹線は1日に5分おきに走っております。1日に150本走っていて40万人、動いています。そうしますと、太平洋側で地震か何かあったら止まってしまうわけです。これを飛行機で代替するしかできません。ということで、日本海側にもう1本バイパスが必要だと言っておるわけです。

私どもの送電線は、数年前に能登幹線と、能越幹線というのをもう1ルート作りました。このため、能登幹線が地滑りで倒壊したときにも電力供給ができました。やはりこういう重要なインフラは、一旦なにかあったときのバイパスというのが絶対必要です。日本の動脈を東海道新幹線1ルートに頼っているということはまさに危ないということを、私どもは訴え続けてきました。

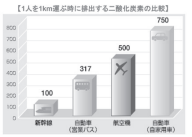
○北陸新幹線整備に関するスタンス

- 北陸新幹線は、全国新幹線鉄道整備法に基づき、昭和48年に整備5線のひとつとして決定されている路線に基づいた計画
- 北陸新幹線は「北陸広域圏地方計画」における将来像「日本海時代の中期強盛」実現の機軸となる極めて重要な国家プロジェクト
- 北陸地方に大きな経済波及効果をもたらすとともに、東海道新幹線の代替補完機能と兼ねた環境特性を有していることから、国家の責務として大阪までの全線整備を進め、その機能を最大限発揮させることが必要
- 喫緊の課題は、「敦賀までの工事実施計画一括認可」、各都市では、現在、既に新幹線開業後に向け、駅を中心とした街づくりを推進
- 北陸三県の一体的な発展には是非とも必要な補完延伸等の工事認可に対する格別な配慮を、三県や他の経済団体とも連携し、政府・今究に要望

【東海道新幹線のラッシュが及ぼす影響(実績)】

- 121年8月 神岡沖地震(震度6弱)
 - 3時間不通(約本運行) 24万人に影響
- 124年1月 深津川橋脚
 - 3時間不通(9本運行) 15万人に影響

【1人1kmを1日に走行する二酸化炭素の比率】



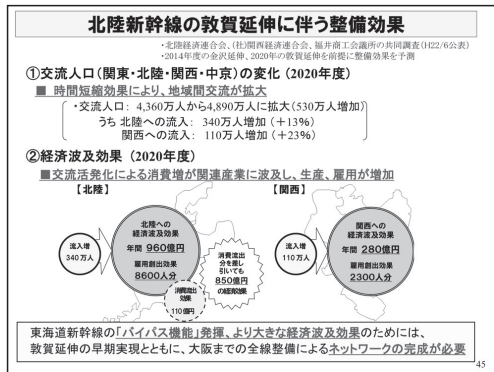
交通手段	CO2排出量(1人1kmあたり)
乗用車(1人1台)	100
バス	317
航空機	500
自動車(1人1台)	790

122年度政府予算案(121年12月発表)

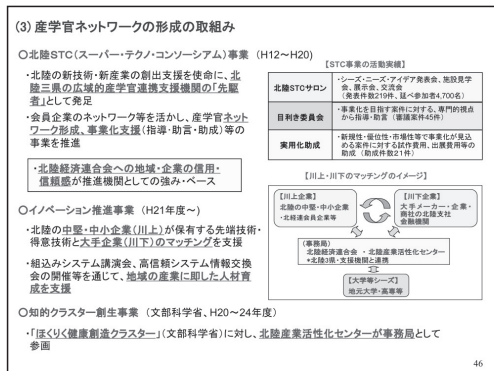
- 長野～金沢間 1,700億円(概算案とあり)
- 保体分 90億円
- 金沢～敦賀間の土木工事区間について、概算案認可、自動車事故が頻発し、今夏までに着工の最先順位を確保

もうひとつ、理屈っぽい話ですが、北陸新幹線は昭和48年に整備5線のひとつとして国が決めたんですよ。東海道新幹線が昭和39年に動いて、今、平成26年に金沢まで来るとしても50年たってるんです。そんなバカなことないでしょ。『50年の差はどうしてあるんですか?』ということ、我々は要請ではなしに、怒り狂って、財務省ともやりましたが「金がない」という。「金がないでやめるんだったら、だれでもできるでしょう」と、逆にそういうことです。私は「鉄道債でも何でも国債とは別に出せばいいじゃないですか」「金利を低くして、そしてそれは子どもに贈与しても贈与税なしということで、その代わり金利はつかないというふうなアイデアもあるでしょ」ということを申し上げて、それに賛成の先生もいらっしゃる。でも、政権交代になってしまったものですから…。なんとしても、「敦賀までの工事实施計画一括認可」、これが喫緊の課題であります。

北陸新幹線の敦賀延伸までの整備効果もようやくこの間できまして、発表しました。交流人口が530万人増えます。経済効果は1200億円、1万人の雇用創出があるということで、経済効果を出しております。これから人口が減っていくのを心配するだけじゃなしに、交流人口で増やせばいいんです。みんな新幹線でウロウロすればいい、新幹線に乗ること自体が観光なんですよ。そのためには新幹線を繋がなくちゃいけない。早く繋がないことのデメリットを今訴えていくために、ちょっと勉強しろとって、今ハッパをかけているところであります。



次に産学官のネットワークということで、スーパー・テクノ・コンソーシアム事業、これはもう終わりましたが、今、イノベーション推進事業というのをやっております、北陸の中小企業が持っている先端技術と大手企業が持っている技術をマッチングさせて新しいものをつくっていく、ということを考えているわけでありませう。



組み込みのソフトとか高信頼システム情報交換会を通じまして、地域産業に即した人材育成も支援していくことも考えております。すでに「ほくりく健康創造クラスター」というのを富山県と石川県と合同でやっております、これは年間7億円のお金を国から取り入れて5年間で35億円のお金を投入して研究していくものです。例えば胎児のダウン症の診断は、胎児の段階で羊水

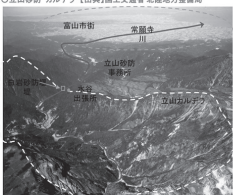
を取るときに、たまには危ない時があるらしいです。それを血液からの遺伝子情報で取り出して、それでわかるような仕組みをこの「健康創造クラスター」で挑戦しております、これはかなり有望であるということです。これをうまく利用すれば、世界中、何人か失敗して亡くなるケースがなくならないと、出生前にダウン症の診断ができるというメリットがあります。わかった時にどうするかというのは、人道上の問題とか倫理上の問題がありますので、これはまた別のところで検討しなくてはいいませんが、そういう医学の技術的な課題に対してのテーマが大変多いです。たとえば、漢方薬の生薬がありますが、それがなぜ効くのか、どういう組み合わせだとなぜ効くのかとか、どういう成分でとか、なかなか難しいんですが、そういったことにも挑戦するというのであります。それから「繊維クラスター」は石川県と福井県がやっておりますが、産官学でこういったものに挑戦していこうということでもあります。

民主党政権では「コンクリートからヒトへ」という言葉がありました、コンクリートも大事だということを訴えてきました。たとえば、典型的なのが富山の立山砂防ダムであります。150年前に立山が噴火しまして、大崩落で立山カルデラに大量の土砂が流入しました。現在も富山平野が1～2メートル埋没するほどの土砂が底にたまっているわけです。それがでてきたら大変なので、砂防ダムをつくっております。これはもう賽の河原で、毎年、一時は100億円くらい投入して、今50億円くらい投入しています。こういうエンドレスな砂防事業とい


うのは、典型的な公共投資です。これは「けしからん」と言ったって、それがわが国土なんだというということを知っていただきたい。太平洋側と日本海側の川の流れば全然違うんです。こちらは滝だ。向こうはずっと海みたいなものだ。そういったことを、霞ヶ関はご存じない方が多いということで、我々は訴えている、コンクリートも大事だというわけです。

(4) 安全、安心な生活基盤整備への取組み

○立山砂防 カルデラ 【出典】国土交通省 北陸地方整備局



○立山砂防 白岩砂防えん堤 【出典】国土交通省 北陸地方整備局



・安政5年(1858年)の飛騨地震による大崩落で、立山カルデラ(東西約6.5km、南北約30m)に大量の土砂が流入し、現在も、富山平野が1〜2m埋没するほどの土砂が残存。
 ・土砂流出対策の基幹えん堤である白岩砂防えん堤は、完成から60有年が経過しており、設備の維持・補修が欠かせないことから、下流域の住民の安全と安心を守るため、エントレスの砂防事業を実施。

【北陸道の取り組み】
 ○立地の自然と都市共生共栄「うら」の開催
 ・市民参加のフォーラムを通じ、安全、安心なまちづくりの重要性をPR(118〜20)
 ○国土交通行政当局との懇談会を通じた社会実装の促進
 ○政府・与党への要望活動(他経産とも連携)

47

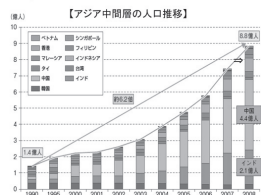
とで負けておりますが、日本はもうモノづくりがダメなのか。私は、そういうことはないと思います。確かに、液晶ではやられておりますが、日本はやはり、このボリュームゾーンに対しての対応の仕方を切り替えていかなくちゃいけない。品質はもちろんですが、品質さえよければいいということから、品質も価格もという時代に入っています。それは競争であります。

(1) アジア ボリュームゾーンへの対応

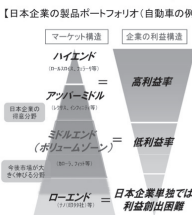
○アジアのボリュームゾーン(中間層)に向けた市場開拓(アジアの内需化)

- ・8億人を越えるアジアのボリュームゾーンへの対応が重要
- ・これまでの高品質追求一辺倒から、「中間層向けの安価な商品を中心に開発・製造し、利益を出すか」発想の転換が必要

【アジア中間層の人口推移】



【日本企業の製品ポートフォリオ(自動車例)】



※中間層は、世帯可処分所得5,001〜35,000ドルの人口
 (資料) 経済産業省 21年度通商白書

49

V. 北陸地域の自立に向けて

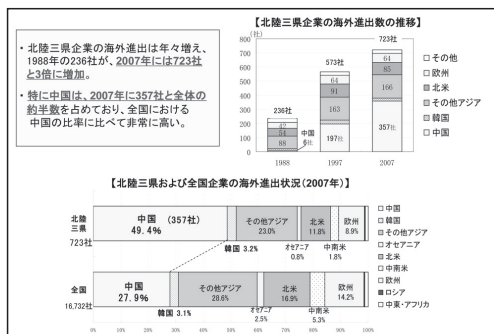
次に「北陸の自立」ということであります。アジアが今後発展するということを行いました。「アジアボリュームゾーン」と言っていますが、8億人を越える、そういった消費をやってくれる人口が増えていく。「化粧人口」というのがどうもあるらしいですが、「化粧人口」は今、中国は1億人だと言われている。

これが4〜5年で2億人になるだろうと言われている。このボリュームゾーンの広がり、我々が考えている以上にグッと広がっていくわけであります。中間層向けの商品をいかに開発していくか、出していくかということで、この面で今韓国に、日本は液晶テレビで負けております。液晶テレビはサムソンがもう圧倒的に安いというこ

そして、次のイノベーションをどうするかということですが、必ず、このアジアボリュームゾーンは次のイノベーションを求めます。そのイノベーションを日本が対応していくということ、それはどういうものがあるだろうかということ、いろいろな意見を聞いてみますと、インテグラル(統合型)の素材・商品、インテグラル型というのは、統合型、それ自体で完結しているという意味です。医療用機器のロボットもそうですし、炭素繊維のジェット機の部品とか、炭素繊維の軽い飛行機をつくる。あるいは社会インフラもそうです。それ自体がひとつ完結している、部品ではなくそういったモノをつくっていくということです。原子力のシュラウドとか圧力容器とかそういうデカイものもありますが、鉄道の車輪というのは住友金属さんの車輪と

軸、これは世界のほとんどがそうですが、そういったものは誰も真似できないものを持っている。日本の原子力のシュラウドも世界の原子力のシュラウドも一手に日本が受けている。こういった技術をさらに磨き上げていくということでございまして、そのためには、北陸はすばらしい中小企業がいっぱいあるわけです。今競争の中で、時間とお金とそしてヒトですね。世界はこの3つの競争なんです。そうすると、これに勝っていくためには、私はやっぱり、それぞれの企業がすすめるのではなく、横の連携、チーム北陸です。サッカーの試合を見ても一人一人の能力だけではもう追いついてかない。チーム北陸で産官学のチーム北陸で次のものを狙っていくということを今からやれば大丈夫だ、と思っています。

また北陸3県は非常に海外への対応が早い。それは中国に非常に近いということもありますが、全国の比率に比べて北陸は非常に高い進出を示しています。約50%が中国に進出している。北陸の海外進出は、今から22年前は230社ほどしかなかったのに今は3倍になっています。普通は国内の空洞化を招いてしまうのですが、残すものは残し、外に出すものは出すということで、今後も東アジアの発展の波に乗っていく企業が多いと思っています。



これは先ほどと重なります。北陸の産業は裾野が非常に広いと申し上げましたが、非常にコンパクトな広さでまとまっておりますので、企業間の連携には非常にいいということで、それによって予想もしない新しい商品を生み出すことができるのではないかと考えております。

話がとびますけれども、イタリアのモンテカティーニというところがあります。この5月に、ここで温泉の治療の状況を調べにいったんです。人口2万人で年間40万人の温泉治療のお客さんが来て、7日間滞在する。喘息の子どもさんも来て、蒸気を吸っているんです。やはり医療と連携している。お医者さんの処方箋で、温泉に行つて療養することができるんです。北陸の温泉というものも、メディカルツーリズムと申しますか、うまく医療と連携していくシステムは今後参考になると思います。ただ、医療という仕組みを変えていかないとできません。しかし、そういうものに挑戦していく必要があると思います。

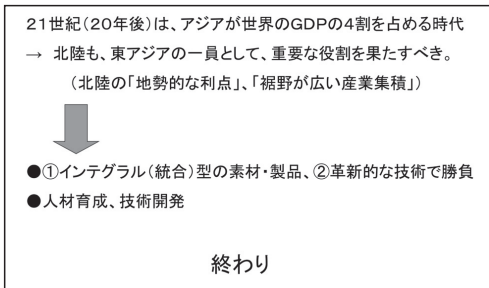
いずれにしましても、いろんなものを連携によって新しいモノをつくっていかねければ、なかなか新しいモノは生まれない。アイデアも出してもらいたい、ということでもあります。

- ・今後も、「最先端技術でのモノづくり」は日本国内に残存
→ 人・モノ・水が豊富な「北陸」は、その受け皿に最適
- ・モノづくりは「技術と応用」の組合せ(企業と企業のすり合わせ)
→ 北陸は、企業どうしの信頼関係が強い

北陸経済の発展には、「医療・健康分野」や「環境・エネルギー分野」での産業創生がカギ

(例)

- ・ほくろく健康創造クラスター(富山県・石川県の連携)
- ・北陸3県 繊維産業クラスター、東し合織クラスター:
ロシア・中国の繊維市場調査、異業種商談会、企業・大学交流



冒頭で、21世紀はアジアが世界のGDPの4割を占める時代が来ると言いましたが、そうしますと北陸は非常に地の利がいいわけです。歴史的にも、そういった地域であります。東アジアの一員として、重要な役割を果たすべきだと思います。地勢的な面、裾野が広く、いろいろな業種の技術を持っております。そのためには、先ほど言いましたインテグラル型の素材とか製品を創り出すことです。革新的な技術の融合も必要でしょう。人材育成、技術開発はもちろんであります。日本が液晶テレビで、あるいは原子力プラントで韓国に負けたからもうだめだということではない。韓国は確かに先端分野で今いっておりますが、たった5社で韓国を動かしている、中小企業はほとんどないです。北陸には特にすばらしい中小企業がいっぱいあります。日本と違うのは、韓国にはこれがないので、北陸の企業は迷うことなく、何度も言いますが、インテグラル型の素材・製品、革新的な技術、人材育成、技術開発を進めていけば、必ず東アジアの発展の有力な一員ともなるし、責任を十分果たせる地域であると考えております。

以上を持ちまして、私の拙い講演を終わらせていただきます。ご清聴ありがとうございます。ございました。(拍手)

■質疑応答①

今日の話で、私たちはやっぱり北陸のことを知らなさすぎるということをお教えされました。先ほど私、冒頭のあいさつで申し上げましたけれど、今回の広報のチラシの中で、先生がそういうキーワードを発しておられまして、北陸3県のGDPは、ニュージーランドとかハンガリーよりも大きいわけですね。

それをはじめ、今日の話で私が非常に興味深く感じたのは、北陸の歴史・風土です。我々が困難に至った時には、歴史をみるってことは大事なことだと思いますので、そういう意味でも非常に教えられることが多かったですが、私がこれに風土・特性のところで追加していただきたいことが一点あります。

実は、私は都市計画とか建築とかを専門としていますが、北前船主の右近家の館、前の河野村、今は南越前町、この村に右近家の別荘があるんですね。右近家の別荘は建築的にも非常に価値があります。ちょうど日本海の海岸段丘の崖の上にあるのですが、建物的にはスパニッシュなんですね。なぜ日本海にスパニッシュの建物があるのか、これは謎でした。これを明らかにしたのが、東大の建築史の藤森先生。右近家を調べていくと、北前船は明治時代に入ってから衰退し、船主は神戸に移るわけですね。江戸時代に北前船で稼いでお世話になったから、やっぱり北陸に別荘を持ちたいと。ところが、北陸というと気候的に別荘を持つところではないですね。ところが、1年を通して気候を見ますと、7月末から8月の2週間ぐらいは無茶苦茶暑い。こど

もの頃の体験では、その期間越前海岸で、こんな暑い日はない。泳ぐのはお盆まで、お盆を過ぎるとクラゲが来るものですから。お盆までは無茶苦茶暑いですね。こんなきついところ、アフリカみたいだと思ったこともあったんですが、右近家の別荘の話で、藤森氏が言うには、日本海はそういう、地中海みたいな暑い時がある。どうやら、その期間だけここに滞在する、というようなことだと。是非この右近家の情報も地域特性の資料に、加えていただきたいということです。

■講師

河野村の右近家の話ですね、ありがとうございます。いい話を受けたまわりました。お土産に持ってまいります。

■質疑応答②

今日のお話を聞いて、いろいろな見方で希望を持てるお話を聞いて、本当に元気づいております。最近、私は危機感を感じていることが2つばかりあります。北経連の時、以前からずっと新幹線の問題で取り組んでいただいて貢献されていることを新聞でよく拝見しております。現在、新幹線の目途が立っていません。といいますのも、新幹線、宴たけなわの時代に、福井の中では割と「米原だ、米原だ」という声があって、あそこで頓挫してしまったのではないかと思います。それからタイミングを失くして、陳情しても実を結んでいないし、昨日、一昨日もまた新聞で、北経連としての建設効果の評価もして、国に働きかけていただいているのはわかっています。ただ、

福井県の中では「飛行場ができて飛行機に乗るわけでないし、いらぬ」とか、それから、昔、どこの工場だったか、原子力研究機関を福井の方につくりたいというような話があったときには、福井の方でどうもはっきり受け入れる気持ちになかったということで、その行動で悔しい思いをしたようです。

また、もうひとつ、道州制の問題がでておりますが、「いやだいやだ」と言っているもどうなるかわかりませんし、もしなつたときには、現状、嶺北と嶺南では、新聞記事を見ていると、いろいろ行動が違っておりますので、そこで直流でつながった若狭と、端なっている嶺北が分断されると、昔の石徹白いとしろみたいになってしまうかもしれない。そういう危機感を持っています。

どうしたら、ここで新幹線に全力を挙げて、結べるか。そこをまた、新しい観点で元気づけていただきたいと、希望しております。

■質疑応答③

今日はどうもありがとうございました。久しぶりで新木さんのお話を聞くことが出来ました。

私は、北陸のすばらしさというのは、いろいろな意味で、歴史的にも、今日的にも、またこれからの時代にもたくさんあると言われました。私どもも海外に行っておりまして、しみじみ感じるんですが、これからはアジアの時代だなど。今までは太平洋の時代だったかも知れません。しかし、これからは本当にアジアの時代です。そのアジアの時代の中で核をなすのは、人口の多い中国でしょう。しかし、それを、やはり繫

いでいくのは日本だなと、いう感じがしみじみするんですね。

そこで、言われましたとおり、北陸の人間は勤勉です。私は、最も北陸の人間のすばらしさは律儀さだと思うんですね。これは、世界に冠たるものです。宗教的な問題もありますよね、祖先から根強く伝わってきた。これはもう、一朝一夕にはできないことです。こういう北陸のすばらしさ、もちろんそれは日本のすばらしさでもあるわけです。日本人もそうですけれども、北陸人は特に、表現するのが下手です。新木先生が言われたように、技術はすばらしい、北陸の匠です。世界に冠たるものがあります。北陸はどちらかというと営業が弱いんですよ。

だから、もっと胸を張って、北陸のすばらしさを、今新木さんが言われましたけれど、全国にお伝え願いたい。これは北陸を説明するというのではなくて、私は日本のすばらしさということでしょう、それが凝縮されたのは北陸だと思います。

今日の話は、北陸人に大変大きなエールを送るとともに、すばらしいことだったと思うので、これからもよろしく願いいたします。「もう任期が来て、引っ込んだ」とは言わないように、大いに言っていただきたいと思います。

■講師

尻を叩かれたような感じがいたしますけれど、確かにね、北陸をもっと訴えていかなければいけません。これを、北陸が一つになってやっていくということで、県域を越えて、北陸経済連合会だけでなく、県

境を越えてそれぞれの分野でやっていくほうがいいと思っています。それぞれの業界も県単位でありますけども、これもまとまってもらいたい。北陸は人口300万ですからね、パワーがやっぱり寄らないと、3本の矢じゃないけどもパワーが出ない。しかし、3本の矢であれば、私は絶対、小粒だけれども負けないと思います。シンガポールとかハンガリーとかマレーシアのGDPを持っているわけです。

それから、やっぱり、北陸はほとんど知られていない。「金沢は知っているけれども、福井はどこだったかなあ」くらいの人が多いですから、これをやはり訴えていくというPR力も欠けていると思います。これもやっていかなければならない。

それから、道州制と新幹線の質問でしたね。新幹線のルートの話は、私から言いませんけれども、とにかく敦賀までは繋ぐということは今全力投球すべき時だと思っております。

それから、道州制については、私は、道州制が全てを解決するような、ユートピア論が多いんです。足元の問題を解決できないのに、道州制だったら解決するなんて、そんなことはありません。それから、日本はアメリカと違いますので、アメリカの真似をして道州制を考えると大ミステークをやる。アメリカは連邦国ですから、国はみんなそれぞれ、州が持っているんだと思えばいい。日本はそうじゃない。一国のちゃんとした国があって、各県があります。ですから、たとえば、警察はどうするんですか、道州制になったら、州警察にするんですか。消防はどうするんですか。学校はど

うするんですか。国立大学はやめて州立大学にするんですか。県立大学と…。いろんな問題があるんですよ。

だから、そういう具体的な問題を考えると、そう簡単に道州制がいいと、いうことを私は言えない。ほとんどの道州制論者はユートピアです。中身は余りありません。タテ筋がないです。国家としてタテ筋がない国にしたらいけない、と私は思っています。

■質疑応答④

富山に行くと、この逆の日本海、ひっくり返した地図がありますね。一番初めて見たときに、びっくりしましたが、いいものです。これは富山県が著作権を持っているんですか。(会場より：「持っている」「富山県が販売している」の声。)

新木さんは北陸電力の出身ですから、北経連でも何でもいいんですが、せめて富山・石川・福井の小・中・高等学校だとか、主要な企業などに売ってもらいたい。企業は買いますし、小学校、中学校、高校は、よく電力が財団つくって寄付されていますが、どんどん寄付して、小学校の頃からこの地図を見てもらいたい。大人になってもこれを普及することが、我々北陸にとって非常にいいところにあるというのと、東アジアと非常に近いなと実感しますので、何か音頭をとってほしいです。

■講師

なかなかいいご意見なので、考えてみます。預らせていただきます。(拍手)